

ひらおが

地域の豊かな発展を願って 質の高い行事の実施

平岡地区町内会連合会 会長 大橋 良一

混乱する世相の中にあつて、青少年が被害者になつたり加害者になつたり、痛ましい事件が発生する度に心のいたむこの頃です。佐世保市大久保小学校の事件は、被害者も加害者も子ども同士という最もあつてほしくない事件でした。

現在平岡も、地域の暮らしの一層の安全を確保するために関係諸団体と力を合わせ、清田警察署の設置と交番の配置の早期実現を期して、運動を展開しております。

その一方では、地域に文化的な潤いの醸成として、本年は年度当初よりそれに

関わる文化的諸行事を計画・実施してまいりました。



演奏に先だつて大橋会長の挨拶

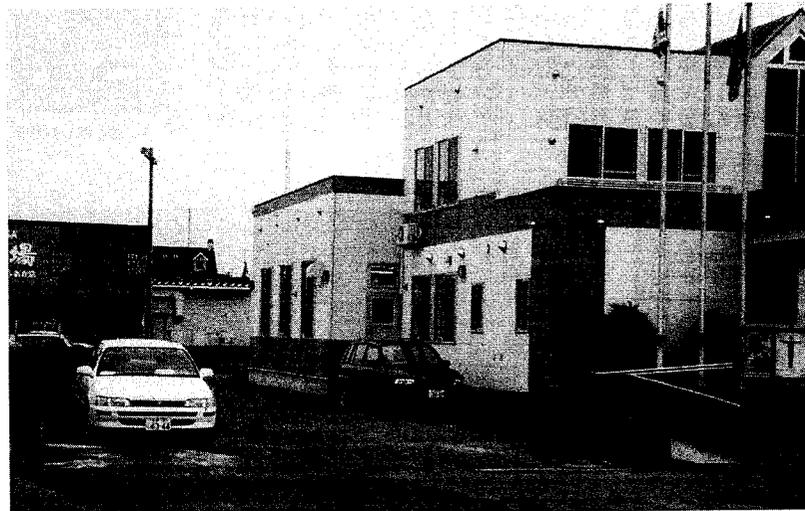
区の行政担当者や地域住民組織が、相互に話し合う『地区懇談会』、『町連』理事の『一日研修会』、『シボルロード』の『植花作業』、特筆はこの5月「札幌交響楽団」の平岡中学校体育館における演奏会が7000人を越える愛好家の拍手喝采を得ました。続いて6月に、区民センターにおいて、区内にある合唱サークルが一堂に会して日ごろの練習成果を発表・交流し「うた声」の楽しさを大勢の人で共感しました。「町連」の主催・共催・後援と新年度のスタートと同時に多彩で、しかも内容のある行事

平岡地区町内会連合会
清田区平岡7条3丁目9-25
平岡地区会館内
☎ 883-7100
発行責任者 大橋 良一
編集責任者 渡辺網太郎

に汗を流してまいりました。今年の4月から、今まで『平岡連絡所』として、地域に親しまれてきた行政の outgoing 先き機関が「まちづくり支援センター」となりました。

「地域が、明るく豊かな街」として発展するということでは、いかめしい規則も大切ですが、笑いがい・励ましがい・共感しあいながら、大勢でゆつくり（後退せず）「質」を高めていくことが大事だと思います。

幸いこの6月、従来より不便だ・危険だと言われてきました地区会館駐車場の出入り口が、2車線になり便利と安全が確保されるようになりました。これを機会に、従来に増してまちづくりのエネルギーの創出がこの「まちづくり支援セン



改良された駐車場出入口



アテネオリンピック熱戦中

ター」を拠点に展開されていくことを願って止みません。

平岡のさらなる 発展のために

清田区長 中野 淑文

平岡地区の皆さんへ

ご承知のとおり、清田区は年少人口の占める割合が高い、持ち家率が高いなどの特徴のほかに、区域のおおよそ3分の2が緑豊かな丘陵地と山林におおわれ、梅で全国的にも有名な平岡公園や、白旗山都市環境林を有する自然の美しいまちです。

や、多数の住人が参加する防災訓練など「安全・安心のまちづくり」をなさっております。

また、福祉のまち推進センターの各種事業や、今年5月に開催された札幌交響楽団のコンサートなどに見られるように「ふれあいのあるまちづくり」活動も積極的に展開されております。

その平岡の地において、地域の皆さんの活動は、町内会連合会をはじめさまざまな団体とともに手を携えて子どもたちを見守る事業

こうしてみまますと平岡には平岡公園に象徴される緑豊かな住環境と、さまざまな活動に取り組み地域の皆さんの熱意という二つの誇るべき、大きな財産があるのではないのでしょうか。



地区懇親会で挨拶する中野区長

昨年7月に札幌市の施政方針である「さつぽろ元気ビジョン」が示されました。清田区としてもその実現

に向けてこの5月に「清田区ふれあいプラン」を策定いたしました。

清田区の特性を生かし、区民の声をしっかりと受け止め、清田まちづくりビジョン2020にある「緑、ふれあい、安らぎ」を区民皆さんとともに実現していこうというものです。

また4月には、地域課題の解決、魅力あるまちづくりに積極的に取り組んでいくことを目的に、「平岡連絡所」は「平岡まちづくりセンター」として再スタートしました。

清田区としては、この「まちづくりセンター」に、町内会はもとより、地域の各階各層のさまざまな個人や団体が集い、それぞれの知識、技術、アイデアなどを持ち寄り、地域の課題について論じ合い、その課題解決のためにともに活動を開始するそんな場にしていきたいと考えております。

平岡の緑豊かな環境を生かして育てるとともに、皆さんの熱意に応えるべく努めてまいり所存ですので、皆さんの一層のご理解とご支援をお願いいたします。

「存じですか?」こどもちゃんサロン

子育て親子の育ちあい広場

菊地 和枝



平岡地区福祉のまち推進センターでは、子育て中の皆さんが自由に集い、ふれあえる場「こどもちゃんサロン」を開催しています。おもちゃや絵本など用意し、また、いろいろな行事も計画しております。



すべり台を楽しむ子どもたち

伸びやかなこどもちゃん

こどもちゃんサロンの親子は雨の日、風の日、吹雪の日も休まずに集って来てくれます。私達支援スタッフは親子のふれ合いを見て増々意欲が湧き、どの様にするかとおもって楽しんでいただけると考えながら、少しずつ手造りで遊具を増やしたり新しいゲームを考案しています。

八回目の7月14日にはバスで「川下りラッククスプラザ」へ親子24組(56名)が愛情のこもったお弁当を持参して遠足に行きました。天気も良く水遊びをしたり遊具で皆さん楽しんで遊んでおりました。清田区子育て支援平岡地区担当の三浦さんも同行していただき、私達が気の付かない細



平岡地区福祉のまち推進センター(ふれあい梅の実広場) 平岡地区民生委員児童委員協議会 TEL 883-7100 平岡まちづくりセンター TEL 883-7100 清田区保健福祉サービス課子育て支援担当 TEL 889-2400 (570) 主催 連絡先 支

みとり拘わりすぎにならない様努め、今後もこどもちゃんサロンに二人目三人目の赤ちゃんと連れ来て来られる、温かく伸び伸びと楽しめる場成長する様頑張りしたいと思います。

今後の予定から
・9月8日(水)
・10月13日(水)
・11月10日(水)
◎12月以降も毎月第2水曜日に行う予定です。



平岡ハーティ・マインド推進運動の取り組みと経緯

平岡地区青少年育成委員会 会長 木下 日出男

平成5年4月、平岡地区町内会連合会の設立に合わせて、清田地区青少年育成委員会から分離して平岡地区青少年育成委員会が発足いたしました。

組織の目的が、地域における青少年健全育成と非行化防止ということでしたので、たまり場や公園のパトロール、悪書追放と言ったことを中心に活動を行ってきましたが、私をはじめ委員会を開催して「委員会の活動は、本当に青少年の健全育成に役に立っているのだろうか」とか「マンネリ化しているのでは……」という疑問や意見が多数あり、慣例にとらわれずに何かできるものはないかと協議いたしました。

いろいろな意見がありましたが、青少年の健全

育成と非行化防止を実現するためには、家庭や学校、さらには関係団体が連携して、平岡独自の事業を行う必要があるとの結論になり、そこで、事業のスローガンを「平岡ハーティ・マインド推進運動」とし「温かい心とおもいやりを持った青少年を育む」ことを目標に事業に取り組むことを決定しました。

また、育成委員全員が活動の基本を忘れないように、そうして同じ気持ちで活動を継続するという意味を込めて、この報告書の表紙に使用しております。家庭、学校、地域がハートで連結され、平岡地区の地図の上に素晴らしいシンボルマークを初代平岡連絡所長米田氏にデザインしていただきました。

第1回目	平成6年2月24日	「青少年健全育成のためのトークセッション」	参加数90名
		※子どもと大人の意見交換の場や交流のための事業が必要である	
第2回目	平成6年12月3日	「子どもと大人のネットワーク」	参加数120名
第3回目	平成7年9月17日	「平岡地区「平岡クリン&ゲーム大会95」	参加数140名
第4回目	平成8年9月6日	「交通安全とハーティマインドゲーム大会」	参加数160名
第5回目	平成9年9月20日	「平岡ハーティマインド研修会、講演会」	参加数135名
		講師、千嶋洋一 子ども達の現場での非行実態 講師牧野徹 親子関係	
第6回目	平成10年9月2日	「平岡防火フェスティバル&ゲーム大会」	参加数180名
第7回目	平成11年9月11日	「平岡リサイクルフェスタ&ゲーム大会」	参加数190名
第8回目	平成12年9月9日	「平岡セフティドライブ&ゲーム大会」	参加数157名
第9回目	平成13年9月8日	「平岡スポーツ&フェスティバル2001」	参加数210名
第10回目	平成14年9月6日	「平岡ブックスロードin&ゲーム大会」	参加数250名
第11回目	平成15年9月13日	「平岡の子供たちに農業体験学習&収穫ゲーム」	参加数240名
第12回目	平成16年8月5日	「平岡地区サッカーフェスタ2004」	参加数130名
		協力団体 小学校3校・平岡中学校2校・平岡町内会連合会・連合会女性部・民生委員	

と高度な実
理論的説明
組では更に
目。高学年
れで大真面
汗と埃まみ
の低学年は
ゴール入れ
が続く中、
が続く中、
の低学年は
汗と埃まみ
れで大真面
目。高学年
組では更に
理論的説明
と高度な実



竹原・小亀両コーチ

を繰り返す指導が始まる。
数種の実技
が続く中、
ゴール入れ
の低学年は
汗と埃まみ
れで大真面
目。高学年
組では更に
理論的説明
と高度な実

二十一世紀の今、野球とサッカーは毎日でも見聞することができ、当然その人口も増えている。平岡ハーティ・マインド推進運動十二回目は、地区青少年育成会主催でこのフェスタが、八月五日平岡中央中学校で行われた。家庭・学校・地域の三者一体事業である。参加校は平岡中央小・同中、平岡小・同中、平岡南小学校から夏休み中の児童・生徒一三〇名が集合した。
コンサドレコーチ二人からの指導とあつて、皆期待に胸を膨らませていた。高学年・低学年組に分けて基本ルールの説明と実践を繰り返す指導が始まる。

合えない
のだから、
何とか月
一度こん
な機会を
継続でき
ないもの
か、と考
える。



高学年の練習

(青山恭子記)

蹴つて 走つて

歓声も高く

平岡サッカーフェスタ二〇〇四

技が加わる。成せば成るの精神で、できない・やらない者には腕立て伏せ二・三回の罰ゲーム入りで厳しい指導風景が続く。やがて全員は、プロの指導に憧れと尊敬の念をもって、声も大きく機敏に動きスポーツの楽しさを味わっていた。

開会式には、木下育成会長・中野清田区長・大橋地区町連会長も出席して「今日の指導から自分自身の次のステップを見出し、向上していくように」と激励していた。子供達は一日中学校外で地域の人々との触れ合いがあまりにも少ない人は、人とでないと思える。

平岡「児童・生徒事故防止対策協議会」

地域ぐるみで夏の巡回・補導

昨年7月、清田区役所・豊平警察署・地元(小・中・高)校のPTA・平岡「町連」・地区民生児童委員・地元の消防分団・青少年育成委員等のみなさんによって「事故防止対策協議会」が結成されました。

2年目の今年も「町連」、民児協、防犯協会など多くの協力をえて、7月から8月にわけ断続10回の夜の巡回補導を実施しています。北公園、南公園などの暗



8月2日の巡回メンバー



巡回要領を説明する木下さん

がりで、水入りバケツや後始末用具の準備もなく、花火に興じている中学生のグループ……。巡回の人が、「気をつけて遊んでね」

「……」返事もなく遊びに耽っている。反応の無い冷たい心が気になります。

「あちこちの公園の木立ちやベンチに、見かけない男性がいる」

心配で子ども達だけでは、遊びに出せない悩みを訴えるお母さんもあります。

青少年の明るい元気な成長は、職務や役割で頑張っている方は勿論のこと、もう一方で言葉や行為の見える隣近所の意識の連帯が大切ではないでしょうか。

頑張れ!! ひらおかママさんバレーチーム(南北海道代表)

全国大会(仙台)へ向け特訓中

総勢13名の小型チーム、それだけに指導や練習の如何に困っては、限り無く成長の可能性を有する仲間達です。昨年、ママさんバレー連盟杯(A・B・Cのラ

ンク別)争奪戦Aクラスで優勝し、今年のサントリールDAKARAカップ第35回全国ママさんバレーボール大会(朝日新聞社など主催)北海道南地区予選で全国大会代表権を獲得しました。



訪問者前列3人(左から菊地、海老沢、坂本)

全国大会は、9月2日から仙台市で開催されます。仲間の平均年齢は40歳。この種のチームとしては、若い方ではない。

しかし、十代の頃からバレーの魅力を知っている人たち、練習場や練習の時間など決して好条件に満たされているわけではありませんが、地域の関係機関のご理解や、家庭の応援などを得ながら、ママがバレーを続けるには

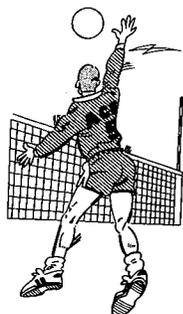
「と、自問自答しながら頑張っています。8月4日、このチームの代表3名(チーム代表菊地さん、主将の海老沢さん、コーチの坂本さん)が、表敬訪問されました。大会は、49チームで争われます。代表は口を揃えて「チームのモットーは、拾

って拾って拾いつくしエース実松めぐみで勝負する」自信に満ちた言葉でした。ママさんバレー「ひらおか」が、広い南北海道の代表として仙台の体育館で健闘されることに惜しみない激励の拍手を贈ります。



エース実松のスパイク決まる(札幌地区予選)

(渡辺綱太郎記)



「趣」の味わいと求めて

「趣味心」というやつは、いつも人の心の少し奥まったところにあつて、理屈っぽいものや研ぎ澄まされた感性などその質や技量の違いはあるにしても、そこには掛け替えのないその人なりの個性豊かな哲学の世界であります。

この平岡にも、その「趣味心」に魅せられた方々がたくさんおられます。その営みの中にある歓喜、苦悩、悲しみ、出会いや諦めなど数ある経験の中から味わいのある話題を提供していただくことにしました。

今から30、40年前までは登山などという親不孝は、大学の山岳部か社会人山岳会など山行きのプロの行動世界でした。
中高年の登山に火がついたのは、一説に因ると1980年代といわれております。夏山シーズンは、どここの山に行っても中高年の女性

シリーズ①

古希を過ぎたの山遊び



平岡親和会町内会 会長 土岐 政美

が圧倒的に多いです。古希を過ぎた私も、その中の一人です。

が、とは言っても私の登山歴はたかだか数年で、高齢・アマチュア初心の山歩き愛好者といったところです。

ただ、20歳〜30歳代の仕事でトランシット(50km先を識別する20kgの大型のもの)と呼ぶ機械を背負って、道無き山の中(登山家の世界では数遭きと言らしい)を地形図(昭和30年代の山岳地帯の大縮尺地形図は五

万分の一、陸軍参謀本部陸地測量部大正13年作成等で現地に行ってみると、無いはずの沢があつたり相当怪しいものだった)コンパスを操作しながら、経験と勘をたよりにほぼ全道を歩き回った経験があり、そのせいか年齢の割には足運びが

よいので、長いこと山登りをしてきたと誤解されることが多いのです。
「夏の数遭きはつらかったなあ」同じ山でも「冬期、



槍穂高連峯

雪の上の作業は楽だった”でも、雪崩の来そうな所は恐ろしかったなどの懐かしい想いが、ほのかに残っています。

なんで、そんな辛そうな山遊びを趣味にして……などと言われそうですが、他にやる事が無く現役時代は、長いこと行き付けの寿司屋で一杯やるのが、唯一の趣味でしたが、いろいろな事情がありまして泣く泣くその回数を週一回に減らしてたのです。

その後、今まで鍛えてきた強い脚と、空模様と山の状況を読む経験を生かし、遊び心であらためて山に行ってみようと考えたのです。(家人に、「気象予報士の資格を取りなさい」とそそのかされています)

しかし、残された時間はあまり多くありません。まずは、国内の南の方から北上(つまり屋久島から本州の山々へ)。「歩き」の様子等は、次号からご紹介いたします。

美しい時代へ — 東急グループ



札幌 東急ストア

平岡店

営業時間あさ 10:00~よる11:00
土・日曜はあさ 9:00~よる11:00

札幌市清田区平岡7条2丁目2-1

TEL 881-4109

P450台

北海道美術協会(道展)会員
グループ「環」 会員

画家 中吉 功氏を訪ねて

(平岡二条三丁目在住)



リポーター 青山 恭子

七月下旬、毎年一つの主題を決めて現在活躍中の画家数十人の作品を一堂に展示する「さいとうギャラリ」夏の企画展を楽しむ。十回目の主題は「海」で見応えも十分。個性豊かな心の表現を鑑賞する中に、今回訪ねた中吉氏の作品が



中吉功

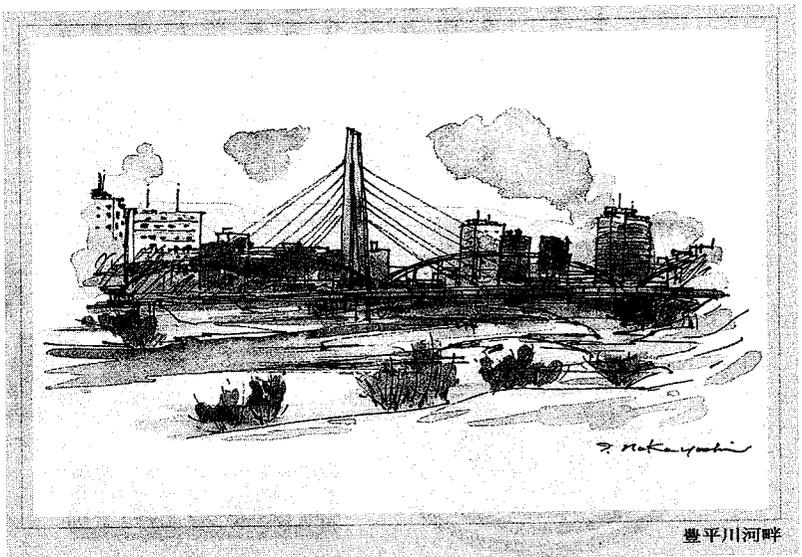
際立つ。油彩画の花が実に柔らかく、繊細な色調が人の心を優しくしてくれる。雨上がりの静かな日曜日氏を訪ねる。和子夫人と共に迎え入れる玄関ロビー、居間には、まさしく画家の空気が漂い数点の作品が品良く飾られていた。秋の道展に向け大作の作画中時間を割いていただき、快い美術談義の時は流れた。父親の影響で幼少期より絵に関心を示し、中学生から油彩に入り画歴は長い。札幌北高卒後、札幌美術学園洋画専攻。59年第32回道展初出品以来継続出品。第38回道展では知事賞受賞。70年道展会員に推挙される。この「会員」たるには一朝一夕にはなれない。

道展出品の過程で力量が認められ「会友」とはなれども、その後の厳しい審査基準を踏破し、確かな実績と高い評価により初めて承認される。現在、道展出品大いに蘊蓄を傾ける一方、毎年の個展への作画や数々の審査員を務める。また求道者の集いでスケッチ旅行など、人と風土を見つめる独自の美学に貫かれた生き方と見受けられる。談話中、写真家である和子夫人の作品も見せていただいたが、その卓越した天分に驚かされる。例えば、窓硝子にできる滴と陽光の変化で起きる造形美の一瞬を撮る。何物にも比喩し難い神秘的な作品である。五年前、絵画



東大寺トムラウシ山

と写真の二人展が道新で大きく報道されたのを知る人も多いでしょう。ご夫妻共多くを語らないが、個々の画風がその人格を物語っていた。油彩は無理なので小品のスケッチを掲載し中吉功氏の紹介とします。道展を楽しむみにして……



豊平川河畔

あ と が き

「平岡は、閑静な住宅地……」とよく言われます。一見静かなこの住宅地に、普段私達の耳目に届かないたくさんの人の動きや組織の活動があります。それが即ち、地域の質であり力であります。

広報紙が「地域情報のミニ版」の役を果たせたらねえ……などと要望を耳にしたことがあります。22号は、多少ともそんな何か感じながら編集してみました。ご意見をどうぞ。(渡辺綱太郎)

清田少年消防クラブ

水難事故防止！

着衣の水泳訓練

動に集中した。

7月24日(土) 快晴の午後1時30分、うだる暑さの中、清田区内(清田・平岡など4地区)から元気な少年消防クラブ員男女約70名がJSS清田スイミングスクール(清田1条4丁目)に父母を交えて集合しました。

主催者を代表して、坂東夫佐子部長は、

「……暑い中、ようこそたくさんさんの会員が参加してくださいました。

みなさんは、今日から夏休みです。きつと山や川や海へ出かけますでしょう。今日は、水難事故・水で怪我や命を落とさないようしっかりと勉強してください。

水着姿になった会員は、山崎先生・西村コイチ他4名の指導陣のもと準備の行



(1) 着衣とび込み

「……暑い中、ようこそたくさんさんの会員が参加してくださいました。みなさんは、今日から夏休みです。きつと山や川や海へ出かけますでしょう。今日は、水難事故・水で怪我や命を落とさないようしっかりと勉強してください。」



(2) 岸辺に這い上がる訓練

札幌市におけるここ数年の水難事故件数は、年間20件前後で経過しておりますが、それとて貴重な一人の

命の問題です。意義のある実技に、真剣に取り組めたことの価値は高い。(渡辺綱太郎記)

おらが「楽生会」

創立十周年記念

平岡しんたく楽生会 副会長 上野 幸雄

6月13日当老人クラブの記念祝賀会が、関係各位の暖かいご理解とご支援で、盛会裡に催すことが出来ました事を深く感謝します。会員一同感激もあらたに喜びを分かち合いました。

開催に当り準備委員会を発足し、次の三点を目標とすることとした。一、会員のための会員による行事とする。二、会員相互の連帯と結束をより強固とする。三、対外的に当会を知らしめる事で会員意識の高揚をはかる。今や老人クラブにも、各会員意識の多様性が顕著になり、組織の変革が求めら

れている状況にあると思う。しかし難しい理想や理念は別にして、既成概念に縛られることなく、気軽に集う憩いの場が必要不可欠であると判断したい。当行事も全て手作りで、アトラクションで披露した楽器演奏、カラオケ、リズムダンス等サークル活動の一環であり、舞台正面題字感謝状も会員自筆、舞台脇の黒松盆栽は三十年来の立派なものを会員より拝借。頭痛の種だった資金不足も、半数以上の会員からの支援金で克服出来た。当会に寄せる揺るがない体制に安堵と自信が湧く。現在、「楽生会」により記

念号」を鋭意編さんしている。感動と刺激 今後も限られた予算、各種の制約、不透明な趣向等あるが、気張らず焦らず、ゆったりと喜びと楽しさを共有し、時には慰め励まし合う当会でありたいと思う。人生に大きな感動とチョッピリ刺激を求めて！



リズムダンスをする「しんたくドドンパ娘」



初めて誕生した

女性町内会長

大田 節子さん

初めての女性会長に

エールを！

平岡ミサワ町内会 前会長 小林 信介



私どもの新町内会長は、女性の「大田節子さん」です。今年四月の総会で推薦を受け選任されました。お聞きしますと、平岡地区でも初めてで、平岡地区町連で初の女性会長が誕生いたしました。これは私ども町内ばかりでなく、平岡地区にとっても「快挙！」であると思います。是非、皆様方からもエール（応援）をお願いいたします。

私どもの町内会は、六十世帯弱で設立以来「一世帯一役」を基本に全員が参画して運営しています。現在会長も含め役員も当番制です。振り返って見ますと、町内会設立時の二十年前は世帯員も総じて若く男性は仕事で忙しく、女性の方々がその頃から中心になって

町内活動を支えてきました。町内清掃、資源回収、広報・周知案内の配布、会費の徴収、交流会、役員会など実質的に担ってきたのは女性です。偉大な女性にあらためて「感謝！」です。そんなことから、女性会長の誕生も遅きに失した位です。役員会も女性が多くなりますと、いつのまにか飲酒機会も少なくなり禁煙になり、建前がなくなりコミュニケーションも良くなり、健康的で細かい気遣いで実のある活動に成ってまいります。今や高齢化がどの町内でも進んでいます。益々女性の視点からの活動が重要でたくさん女性の女性が積極的に町内活動に参加し、声を出して戴きたいと思えます。そのためにも、女性の声や視点に耳目を当て、女性が

参加ししやすい雰囲気・環境づくりが欠かせません。そして、高齢化で世の過半数以上が女性ですから、女性会長を続々誕生させていた

保健衛生部 活動報告

三里川清掃と

ミニウォーキング



保健衛生部長 菅野 岑生

だきたいと期待します。是非、町連の役員の方々に初め、女性会長の誕生にエールをお願いします。

六月二十日（日）第10回目三里川清掃を実施しました。

昨日までは、さわやかな春空でしたのに、本日は今にも雨の降りそうな空模様で心配でしたが、昨年と変わらない参加数（二一六名）と草刈機（八台）で、皆さんは雲行きを見ながらハイピッチで作業を進め、約45分程で予定の雑草地を綺麗に仕上げることができました。御協力心から感謝申し上げます。尚、町内会役員、会員の方々も年々高齢を向かえ、草刈の参加協力もむずかし



7月 ミニウォーキングの開会行事

大変意義のある事業と思っております。

これからも、三里川清掃を継続して我々の地域にある恵まれた川と樹木そしてスポーツ施設等近隣の方々札幌市民へ憩の場として、少しでも役に立てたらと思います。皆様の御協力をお願いします。

地区「老連」のボランティア花植え

平岡地区老連協

会長 中鉢 彰

六月一日 平岡地区老連協傘下の各老人クラブ会長が、地区会館前に全員集合。正午より約一時間、花植えの作業を行いました。

草取りから、床づくりと花植えの作業で一刻汗を流しました。

花植えの作業は、今回で七年目です。

会館前の花植えの仕事はどうして私たち、老人クラブの仕事となって来たのか、その辺は分かりませんが、誰も文句を言わないで、

作業が終了してホールに集まり、そこで飲む冷たいジュースの一杯は何とも言えません。

会館に来る度に、咲き誇る花の姿に私たちは心より愛着を持って眺めています。六月十五日、会館前の通路が拡張されました。広々とした通路が立派になりました。

来年は更に、花の種類等を調整し、会館前を少しでも、きれいにしたいと思います。皆さんにお願いがあります。

各ご家庭で余分な花がありましたら寄贈して頂けま



会館前の花壇風景 (6月)



花だんの草取り (8月)

せんか。土木現業所から割り当てられる花の数では不十分です。皆さんのご協力は是非お願い致します。

少年期の平岡

川遊びの思い出

南平岡町内会 彦素 幸夫



父母が戦後開拓民で苦勞した昭和二十年代、平岡に子供が遊べる川はなく、清田、真栄付近の「あしりべつ川」を目ざして遊んだ。

柳やはんの木、白楊が川端まで茂り蛇行していた。流れは速く、冷たい水はどこまでも澄んでいた。蛇行のため多少の淵と洲・中洲が多く、取水のための堰も有った。治水工事がされていらない自然の川が、子供達の格好の遊び場であった。水温低く急流のため泳いでいる者はいなかったが、暑さには勝てず川に入った。水着など無くパンツ・シュミーズ一枚の者はまだいい方で丸裸で遊び呆けていた。家に帰る時は水を滴らせての凱旋となり、その上の寄り道となる。湿った衣服は泥と埃まみれ、ゴムの短靴

水と汗で足はふやける。遊びに没頭した身体は疲れ、そのまま家に上がり眠る。農作業終えて両親が帰ってくるの大変だ。今で言う「レッドカード」ならまだしも、尻は叩かれるは風呂場で水掛けられるのは大騒動であった。しかし、何故かしら楽しかった。

洲では、玉石を積んで水流を変えたりダムを造り、そこへ小魚を追い込む。また笹舟を流す遊びをした。「川には石」とくればよく水しぶきがいくつ作れるかという石投げ(水切り遊び)をした。薄い手頃な小石を

拾っては記録を自慢し合った。杉下投手に似た超アンダーロー投球。結果は七〇八回と記憶している。そこそその上!の方がおりましたなら、どうぞ広報部まで連絡下さい。そして一緒に昔の子供同志で水切り合戦をしてみたいものです。今にして思えば、よくも

飽きずに小一時間も石投げを続けていたものと思う。思い出は尽きない。川といえば魚。次は釣りの思い出を話してみたい。



アシリベツ川



子どもの夢を育んだ山道

短歌

しんたく自治会

魚住 テル子

優勝 駒吉 平岡中央中出身
五十嵐 大君

そつと手に みどりご抱く

感触は おぼろ気なれど 蘇りくる

— 樹芸センターに憩う —

車椅子に 押された花見の

老達は桜見上ぐる 面差し柔和に

八重桜の厚らに散れる

木下道ためらひ踏めり 季惜しみつつ

書道

シユヴァーピング9番館町内会

総務部長 及川 建 (北仙)

第53回毎日書道展

秀作賞 及川北仙



筆の開閉と墨量に変化をもたせながら
表情の豊かさをねらってみました。

トピックス



朝日新聞号外より転載

平岡で活躍する

活動団体を紹介します

平岡では、たくさんの団体・グループが安全で安心、ふれあいのあるまちづくりに活躍されており
ます。

今回は、その中核をなしている
平岡町内会連合会の活動は勿論の
ことですが、その様子については
割愛させて置き、そのほかの団体
についてご紹介いたします。

□福祉のまち推進センター
独り暮らし老人を対象に、日帰
り旅行・茶話会友愛訪問などを実
施しています。

□民生委員・児童委員
地域内の高齢者・障害者・母子
家庭等に加え、子どものことなど
悩みごとの相談や支援活動を行っ
ています。

また、「町道」・福まち事業な
ども積極的に応援をしています。

□老人クラブ連絡協議会
平岡地区の12の老人クラブが集
い、研修会・演芸大会・パークゴ
ルフ大会など元気に活動していま
す。

植花・草取りなどボランティア
もさかん。

□在宅介護支援センター平岡
「すこやかクラブ」などの名で、
65歳以上の方を対象に、毎月三つ
の会場で工芸教室や転倒予防教室
などの研修をします。

また、バス遠足などレクも盛ん
です。

□平岡少年消防クラブ
小学生を対象に、防火・防災に
関する実技や研修を行います。

今年も、着衣水泳訓練やキャン

□清田消防団平岡分団
安全・安心のまちづくりに向け、
日夜防火・防災活動に取り組んで
います。

また、「町連」の防災活動にも
協力しています。

◎この他にも活動されている団体
役員・個人がおられます。一部の
み御紹介いたします。

*介護司
*クリーンさつぽろ推進員
*日赤奉仕団平岡支部
*更生保護女性会平岡地区
*平岡少年補導委員
*児童・生徒事故防止合同対策協
議会

■平岡地区会館から
日頃、会館には「ともに学び」
「ともに鍛え」 「ともに育ち合う」
たくさんのサークルや教室が開か
れています。

*老若男女の空手教室
*演歌からクラシックまでの器楽
サークル
*四季の花を飾るフラワーサーク
ル

◎その他、書道・ダンス・詩吟な
どがあります。

※詳しくは、「町連」役員か平岡
まちづくりセンターにお尋ねくだ
さい。

平岡まちづくりセンター
所長 谷地田 明
TEL 883-7100